

長野県梓川高等学校卒業式
式辞

厳しかった冬の空気もようやく和み、ここ北アルプスの麓も春の兆しを感じられる季節となりました。日一日と春の訪れを感じられる今日の頃です。

本来であれば、多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、在校生と共に皆さんの卒業をお祝いするところですが、新型コロナウイルスの感染拡大により、このような形の卒業式となってしまったこと、学校としても残念でなりません。しかしながら、コロナ禍にあって、困難な状況乗り越え、今日という日を迎えたみなさんには、社会の荒波を乗り越えて行く力が養われていると確信しているところです。

保護者の皆様におかれましては、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。立派に成長した姿を皆様とともに喜び、併せて本校に対するこれまでのご理解・ご協力に対しまして深く感謝申し上げます。

卒業する皆さんの門出に際し、私からいくつかはなむけの言葉を送りたいと思います。

かわいい子には旅をさせよ。また、若いうちの苦労は買ってでもしろ。という言葉があります。いずれも人生の早い段階で苦労を経験したほうがよいという意味合いで使われる言葉です。みなさんにも是非、若いうちに苦労をしてもらいたいと思います。苦労をして、他人と比べて、不幸な自分を嘆いて、うらんだり、ねたんだりしてはなりません。困難に、壁にぶつかり、苦労を味わっても、そのことで自分が鍛えられる、自分の力が高まると考えてください。苦労してひねくれるのではなく、苦労を身につけ、自分の器を一回り大きくしてもらいたいのです。

みなさんの人生という旅は順風満帆というわけにはいかないかもしれません。思い通りにいかないのが人生です。これから皆さんの前には大きな壁が立ちふさがることもあるでしょう。目の前に現れた壁にどう立ち向かうか。最初にどう立ち向かうかが、その後のみなさんの生きる姿勢を決定づけます。最初の壁から逃げたものは、次に現れた壁に対してもまず逃げることを考えます。あきらめたものは次の壁もあきらめます。壁を乗り越えようと雄々しく立ち向かったものだけが、次の壁に立ち向かう勇気を得るのです。最初の壁に立ち向かったものの、乗り越える努力むなしく、努力が無駄に終わるかもしれません。しかし、努力が無駄に終わることがあっても、無駄な努力などというものはありません。乗り越えようと努力するからこそ、腕力がつき、脚力がつき、心が鍛えられる。力がつくのです。一見無駄に思える努力をあきらめないことによって、次の壁を超えるのに必要な力がつくのです。

みなさんの門出に際して、もう一つ、心にとめておいてもらいたいことがあります。それは、自分のかけがえのなさを自覚してほしいとい

うことです。工業製品であれば、同じ工場で、同じ製造ラインで、同じものを大量生産できます。しかし、人間は、皆さん一人一人は、それぞれ皆違います。自分と全く同じ人間は世界中どこを探しても見つかることはできません。それどころか、人類の歴史が始まって以来、そしてこれから先の未来においても、自分と全く同じ人間は出現することはないのです。希少価値という言葉があります。数が少ないからこそ、価値がある、高い値段がつく、手に入れたいと思っても手に入らないものに希少価値があります。希少価値というなら、皆さん一人ひとりは、自分という人間は、何物にも代えがたい、かけがえのない存在です。決して自分で自分を軽んじてはなりません。自分のかけがえのなさをしっかりと自覚して人生の歩みを進めてほしいと思います。

さて、かけがえのない卒業生お一人お一人を本日まで育てていただいた保護者の皆様、ここにいる卒業生諸君は、それぞれこれから長い旅路へと向かいます。わが子の旅を親が代わってやることはできません。長旅に耐えうる力は、旅を続けることでしか得られないのです。保護者の皆さまには、長旅の途中、旅人がほっと一息つける、オアシスのような存在であり続けていただきたいと思います。

最後に本校を旅立つ皆さんの長い旅路が、大変であっても、安全で、わくわくして、充実して、かけがえのない旅になるよう祈念いたしまして、式辞といたします。

令和四年三月五日
長野県梓川高等学校長
腰 原 英 徹